

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671600328
法人名	株式会社 東北福祉サービス
事業所名	ケアステーション21清池(グループホーム)
訪問調査日	平成 21 年 1 月 23 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 4 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	671600328		
法人名	株式会社 東北福祉サービス		
事業所名	ケアステーション21清池(グループホーム)		
所在地 (電話番号)	山形県天童市大字清池38番地3 (電 話) 023-658-1050		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年3月4日

## 【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18	常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算	17.8人

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	鉄骨・木造 造り 3階建ての 1階鉄骨 ~2・3階木造	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 60,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	220 円	昼食 400 円
	夕食	380 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000円

## (4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	100 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	中橋医院・さいとう内科胃腸科クリニック・大島医院・吉岡病院 ・鞍掛胃腸科内科医院・けい歯科矯正歯科クリニック・福田歯科クリニック
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南側の窓から心地よい日差しが差し込む明るいユニットの中では、利用者一人ひとりが思い思いに、おしゃべりを楽しんだり、お茶を飲んだり、歌を歌ったりしており、自由でゆったりとした時の流れを楽しんでいます。職員は利用者に「普段の生活での潤い」を提供したいと考え、個性を尊重しながら、それぞれが得意とすることを生活の中に取り入れ、毎日刺激のある生活支援を目指しています。また、「サービスの質の向上」と「家族との信頼関係の構築」がより図られるよう、年1回の無記名家族アンケートの結果をもとに、職員間や運営推進会議で話し合われた内容を家族へ返していく取り組みも進められています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地元の自主防災会の訓練に参加しており、いつでも地域から協力が得られる体制にある。また、これまでに「夜間の避難方法と緊急連絡網の確認」「車椅子利用者の避難経路と避難方法の確立」などに取り組み、自主防災会の協力を得た訓練が間もなく実施される予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で1ヶ月位かけて話し合いを持ち、自己評価をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2~3ヶ月の間隔で開催されており、ホームの活動内容報告や家族アンケートで出された課題、意見、要望などについての活発な話し合いが行われ、利用者サービスの向上にも活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケートが年1回実施されており、その結果から把握できた意見や要望等については、運営推進会議や職員会議でも話し合い、ホームの運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、地域文化祭やお祭り、自主防災会の研修にも積極的に参加している。また、ホームの夏祭りには地域の方の参加もあり、交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念に、「住み慣れた地域で、馴染みの場所、人とふれあい・安心できる暮らし」を新たに加え、職員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールの入り口の見やすいところに理念を掲げ、申し送りの時に唱和したり、確認の意味を含め管理者が話しをしたりしている。また、地域の顔なじみの方との交流の中での実践を大切にしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、地域文化祭やお祭り、自主防災会の研修にも積極的に参加している。また、ホームの夏祭りには地域の方の参加もあり、交流が図られている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で1ヶ月位かけて話し合いを持ち、自己評価をまとめている。また、前回の外部評価結果への取り組みとして、これまでに「夜間の避難方法と緊急連絡網の確認」「車椅子利用者の避難経路と避難方法の確立」などに取り組み、自主防災会の協力を得た訓練が間もなく実施される予定である。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2~3ヶ月の間隔で開催されており、ホームの活動内容報告や家族アンケートで出された課題、意見、要望などについての活発な話し合いが行われ、利用者サービスの向上にも活かされている。		

山形県 ケアステーション21清池(グループホーム)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会(「はつらつ介護教室」)へ参加をしたり、利用者の状況や空室に関する連絡の機会を設けたりしており、また介護相談員の定期訪問の受け入れも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームだより」「利用者の暮らしぶりや健康状態をまとめたもの」「金銭収支のコピー」を、毎月一緒に個々の利用者家族に送っている。また、職員の異動については、ホーム便りに写真入りで紹介されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートが年1回実施されており、その結果から把握できた意見や要望等については、運営推進会議や職員会議でも話し合い、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職があった時には、管理者とユニットの責任者が引き継ぎを確実にを行うようにしており、新任職員には必ず馴れた職員がつき、利用者へのダメージを防ぎながら、馴染み関係を築けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報があれば可能な限り勤務調整を行い、職員の段階に応じた研修が受けられるようにしている。また、研修受講者が、報告する機会を設けられており、研修内容を共有してケアに反映させるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内グループホーム協議会の交換研修、社会福祉協議会の勉強会等に積極的に参加して、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の仕方、「だんご木」などの風習や季節行事などについて、利用者と話をしたり、教えてもらう場面作りが行われている。また、普段の会話の中でも、不安なこと、嬉しいこと、悲しいことなど、利用者一人ひとりの気持ちを考えて、一緒に分かち合う関係作りに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の把握、日頃の会話や表情、仕草から、個々の思いや希望を把握しており、起床時間や食事時間、他の利用者との関係づくりにも配慮されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を取り入れ、職員全員による話し合いが行われており、利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行われており、また、日々の暮らしや行動の記録なども活用しながら職員で話し合い、個々の利用者の現状にあった介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関及びかかりつけ医に引き続き受診できる よう、家族とも協力して支援している。また、往診や緊急 時の対応も受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	サービス利用開始時に「重度化した場合の指針」が本 人や家族に説明されており、把握できた意向に基づい た方針は、職員間でも共有されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	常に尊敬の念を持って利用者一人ひとりに接するよう にしており、個人記録は、他者の目に触れないよう保管 されている。また、利用者個人に関する内容の会話を する場合は、その個人が特定できないよう注意して話を するようになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な暮らしの流れはあるが、利用者一 人ひとりのペースに配慮しながら、食事時間、外出先、 就寝時間など、それぞれの希望に添った支援に取り組 んでいる。		

山形県 ケアステーション21清池(グループホーム)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に盛り付けや後片付けをしており、職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、外食に出かける、出前をとる、旬のものを食事に取り入れるなど、食事がより楽しみなものになるよう工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に合わせた入浴ができるように、入浴の時間、回数、順番を決めている。また、菖蒲湯や入浴剤も取り入れながら、季節感を体感できるようにしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事の支度、掃除、塗り絵、計算ドリル、歌を歌うなど、楽しみごとや気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近くの神社までの散歩や毎日の買物など、利用者一人ひとりの希望に沿った外出が支援されている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害が職員に理解されており、安全面にも配慮しながら見守りや声かけを行い、日中は玄関に鍵をかけずに過ごせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の自主防災会の訓練に参加しており、いつでも地域から協力が得られる体制にある。また、これまでに「夜間の避難方法と緊急連絡網の確認」「車椅子利用者の避難経路と避難方法の確立」などに取り組み、自主防災会の協力を得た訓練が間もなく実施される予定である。		

山形県 ケアステーション21清池(グループホーム)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	書籍を参考にしながら職員が栄養・カロリーを計算して献立を作っており、また、利用者に合わせた「硬さと柔らかさ」の工夫、食事と水分の摂取量把握、体重測定も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーを意識した居間にはコタツやソファが置かれ、季節を感じさせる飾り付けに囲まれながら、利用者は居心地のよく過ごすことができている。また、空気の入れ替え(一日2回)、温度計と湿度計の設置も行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた「タンス」「ハンガーラック」「テレビ」「衣装ケース」「写真」などが持ち込まれており、自宅と同じような雰囲気の中で過ごせるように配慮されている。		